

平成30年度第1回亀岡市社会教育委員会議 会議録

1 日時 平成30年7月31日(火) 午前10時～午前11時45分

2 場所 亀岡市役所 302・303会議室

3 出席委員

高光 宗是 委員
境田 俊之 委員
丸山 一久 委員
工藤 和之 委員
福阪 大輔 委員
松井やす子 委員
美馬喜代子 委員
沼津 雅子 委員

4 欠席委員

池邊 勇作 委員
前田 厚子 委員
竹岡 順子 委員
池田 恭浩 委員

5 出席事務局職員

田中 教育長
山本 教育部長
大西 社会教育課長
亀井 社会教育課人権教育担当課長
谷 図書館長
鵜飼 文化資料館長
桂 社会教育課副課長兼社会教育係長
岡田 社会教育課放課後児童係長
土井 社会教育課文化財係長
宮川 社会教育課主任

6 傍聴者

なし

7 議事の概要

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付

- (3) あいさつ 田中教育長
- (4) 委員紹介
- (5) 事務局職員紹介
- (6) 議長・副議長選出
 - ・議長 工藤委員〔新規〕
 - ・副議長 松井委員〔新規〕
- (7) 連絡・報告事項〔事務局から説明〕
 - ・亀岡市教育振興基本計画について
 - ・平成30年度亀岡市社会教育推進事業について
 - ・平成30年度亀岡市人権教育推進事業について
 - ・亀岡市社会教育委員の平成29年度活動報告及び平成30年度活動計画について
- (8) その他
 - ・各社会教育委員の活動紹介
(沼津委員) みずのき美術館の事業紹介
 - ・連絡事項
教育委員との懇談について
懇談事項の内容・テーマ等の案について、各委員に依頼
- (9) 閉会

●説明を受けて委員からの主な意見・感想

○委員

- ・地域学校協働本部事業での学校との連携の話が出ていましたが、「京都府の教育」にコミュニティスクールのことが大変詳しく書かれている。今年度府の学校教育課長に文部科学省の方が来られており、その方の思いが反映されたものだと思っている。
- ・生涯学習都市宣言をしている亀岡市として、生涯学習という時代の、小・中・高等学校がいかにあるべきかを考えていかなければならない。そういう意味で、文部科学省は地域学校協働本部事業やコミュニティスクールを推進していると考ええる。
- ・私の関連する地域は若い地域であり、そこに住んでいる地域の方や子どもたちに「ふるさと」と呼んでほしいと思っている。そのためには地域と一緒に地道な活動をやっていないとふるさと意識は根付いていかないのではないかと思う。
- ・地元自治会等と学校がつながった活動で、大人も子どもも学べる学校にしていきたい。
- ・自治会と協働してどんな子どもに育てていきたいか。そのための準備をどこかでしたいと思っている。

○委員

- ・図書館の司書を派遣されていることについては、十分に届かないところを掘り下

げる取り組みであり、評価できる事業だと思う。

- ・学校教育と社会教育をうまくリンクさせることができれば、生涯学習に繋がっていき、さらに地域の活性化にも繋がると思う。

○委員

- ・子どもたちの現場、社会教育の立場で関わっている（放課後児童会、子ども会）。三つの柱として学校教育・社会教育・家庭教育があるが、今の家庭教育はどうなっているのかとつくづく思う。
- ・家庭教育支援事業をされているが、ほとんど小学校へ行くまでの子どもの家庭を対象としたものなので、小学校の高学年の子どもの家庭を対象としたものを考えてもらいたい。家庭でどのような教育をしているのか疑問だし、実際、子どもと接する時間があるのかと思う。

○委員

- ・PTA事業については、いろいろな関係機関と連携して事業をしていかなければならないと思っている。
- ・人権教育指導者研修の中で「SNSを活用した・・・」について非常に面白いと感じた。社会教育事業に関してもSNSを活用し情報発信をすることで、今まで見ていなかった層の人たちにも見てもらえ関心を持ってもらえる。皆さんの活動についても、情報発信の手段の一つとして活用してみるのもいいと思う。

○委員

- ・多くのいろいろな事業があることが分かったが、子ども読書活動推進事業で読書手帳の普及があるが、これは子どもが今までどれだけ本を読んできたか、どれだけ心を打つ作品に出合ったかを保護者が知るいいものだと思う。
- ・学校への司書の派遣についても、専門的な面からの学校への支援ということで、とても大事なことだと思う。
- ・放課後児童会が現在1年生から6年生まで幅広く開設されており、支援員の先生も大変だとは思いますが、それだけのニーズが高まっているということだと思う。高学年の子どもが低学年の子どもをどのように遊んでやるのか、どんな交流を行うのか、上級生の良いところを低学年が学んで、またその良さを自分が高学年になったとき伝えていくというような温かい放課後児童会の雰囲気づくりが大切ではないかと思う。
- ・文化財の発掘事業をされているようだが、小学生の高学年、中学生の歴史学習とともに、亀岡の歴史を見せることで亀岡を大事にしていく子どもが育っていくのではないかと思う。

○委員

- ・福祉というのはすべての人が幸せに生きるための環境を整えていくことが目的だと思う。
- ・臨床心理士の資格を持っているので、文科省の研究事業の時からスクールカウ

ンセラーの仕事もしている。

- ・子どもたちがどのように自分の居場所を見つけ、また他の方たちのことを考えることが大切なテーマになるので、その中で当然ハンディを持った人たちのことを考えることも必要。
- ・全体の人口から考えると少ないが人の値打ちに変わりはないということを考えることを願わずにはいられない。
- ・私のいるところでは26, 7年前から絵の活動があり、社会で主流にならない人たちが作りだした作品をコレクションする場を立ち上げた。そこでの絵画活動として人の表には見えてこない良さをみんなが持っていることを紹介させていただき使命を持っている。
- ・プロのアーティストにも作品として評価をしていただいております、環境を整えば隠れている能力がそれぞれ皆さんにある、美術館はそのことを紹介させていただく場として、社会と福祉施設をアートでつなぐ場として活動している。
- ・社会の中では数少ない、またお世話が必要な側の人たちですが、実は健常者が持っていない力を持っているということに気づく、また気づけるように、また子どもたちがその方たちに心配りができるようになればと思う。
- ・生涯を通じて学び合うということで、社会教育は非常に幅広い役割があると改めて思った。

○委員

- ・今はひきこもり問題が大きく取り上げられ、社会教育委員にも代表者研修に来ていただいた。昨年は亀岡のひきこもりの数を調べてほしいと依頼されたが、今年は厚生労働省の予算をつけていただいたので、その相談等についても言われている。
- ・50, 80問題が言われており、50の息子を80の親が看るという時代が来ている。先日、30歳の方の生活保護の申請があり、なぜ私が30歳の方の保護の申請にハンコをつかなければならないのかと聞くと、うつで、人間関係がうまくいかず、就職もうまくいかない、また親御さんは知らないといっていると聞き、そんな時代になっているのかと思った。
- ・老人の虐待のことを言われて、現場に駆けつけると外見は平穏な家庭だが話を聞いている間に、高学歴だが、ひきこもりの実態が出てきた。いろんな問題があるが、子育て支援をしていく中で、このような大きな問題が出てきているのが現状であり、皆さんと一緒に子育ての時代から勉強していかないといけないのかと思っている。

●会議資料 別紙のとおり

○閉会あいさつ（教育部長）

- ・長時間にわたり協議いただきありがとうございました。今日は報告等が中心となり時間が長くなって申し訳ない。その中でいただいた意見については今後の教育

行政の中に反映させていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

- 私個人としても、家庭の基礎力について懸念をしている。放課後児童会の場においても、なかなか規律を守らない児童の話もあったが、そういう部分についても、家庭を取り巻く状況が変化し、家族形態も変化してきている。そういった中でどのような形で家庭の力を高め維持していくかが大きな課題ではないかと思う。
- 社会教育は非常に幅広く取り組んでいく部分があるが、まだまだできていない部分もたくさんあると思う。放課後児童会においても支援員や環境の部分においてまだまだ十分とは言えないところもある。そういった中ではあるが一つずつ進めていきたいと思う。
- ふるさと学習と地域と学校の連携の中に体験事業の話があったが、「ふるさと学習保津川下り」を実施している。そういうことがあるということを知っているだけでは自分のものにはならないということで、小さいうち実体験をする中で、また外へ出たときにもふるさとを思い出させる取り組みとしての事業なので、ご理解をいただきたいと思う。

以 上